

第8回

広島の『在日』を考える

被爆、そして、今

主催 広島の「在日」を考える集会実行委員会

後援 広島市・広島市教育委員会

6月7日(土) 13:30～17:00

広島市留学生会館 〒732-0806 広島市南区西荒神町 1-1 082-568-5931

講演 「在日朝鮮人被爆者として生きる」

講師：呂^{リョ}相^{サン}豪^ホさん

アトラクション 府中チャンゴクラブによるチャンゴの演奏

シンポジウム 「『在日』から見た日本社会」

パネラー

安^{アン} 錦^{クン} 珠^{ジュ}さん(新渡日在日コリアン1世、大学院生)

呉^オ 洸^{ガン} 星^{ソン}さん(在日コリアン3世、大学生)

李^リ 由^ユ 紀^キさん(在日コリアン3世、大学生)

コーディネーター

山崎 豪さん(全朝教広島)

参加費 : 500円(小中高生は無料)

問い合わせ先 : 実行委員会事務局 082-229-0111

〒732-0015 広島市東区戸坂城山町 1 - 3

広島城北高校内 笹川俊春

被爆地・ヒロシマから 多文化のメッセージを

広島「在日」を考える集会も今年で8回目を迎えました。この集会が始まったその年、2001年の「9.11」以来、世界全体が「テロ」を名目に外国人に対して“不寛容”になりつつあるのではないのでしょうか。日本もまた、昨年11月に出入国管理法及び難民認定法を改悪し、16歳以上の入国外国人から指紋と顔写真という生体情報の提出を強制しています。1980年代後半、在日コリアンによる指紋押捺拒否闘争によって広がった外国人の人権保障を求める闘いは一定の成果を挙げました。しかし、今、その流れが逆流を始めています。そのような時だからこそ、今一度「在日」の声に耳を傾け、私たちの社会のありようを考えて見ましょう。

リョサン ホ

第1部では「在日」の被爆者・呂相豪さんに戦後の歩みを中心に証言していただきます。また、第2部では三名の在日コリアンの方に地域や学校での経験、それを通して感じ、考えられたことを話していただきます。ご多忙の折とは存じますが、万障お繰り合わせの上、ぜひご参加ください。